

CO₂削減5者共同で

大館北秋田森組と4企業

上小阿仁村の山林で間伐

環境省のオフセットクレジット(J-V E R)制度に基づくプロジェクトを進めている大館北秋田森林組合(大越勝男組合長)と4企業が県内初の上小阿仁地域のカーボンオフセットクレジット発行に伴い、地域の環境保全貢献活動に寄与するため、温室効果ガス吸収プロジェクトのオフセットクレジットを取得、91トンの二酸化炭素(CO₂)削減を共同で行うことになった。



活動報告を行う大越組合長ら(大館北秋田森林組合で)

J-V E R制度は、2008年11月から環境省がスタートさせた。国内の地球温暖化対策を促進するため、国内で実施されるプロジェクトによるCO₂の削減・吸収量をカーボンオフセット用のクレジットとして認証する。

カーボンオフセットは、企業が地球温暖化の原因となるCO₂などの温室効果ガスの排出量削減に努めながらも、削減が困難な排出について、森林を整備したり、ほかで実現した排出削減量を購入することで、その排出を埋め合わせる。

同森林組合が昨年、環境省の認証を受けて進めている北秋田地域振興事業に伴う上小阿仁村J-V E Rプロジェクトは、森林吸収プロジェクト間伐促進型。上小阿仁村五反沢集落と仏社集落の組合員所有の山林で、計画的に杉人工林の間伐を実施することでCO₂の吸収量を増加させ、増加したCO₂吸収量をクレジットとして発行。その

売却資金を山林所有者に還元するとともに、さらなる間伐の促進を図っていくもの。

今回、低炭素社会に向けた取り組みの一環として、上小阿仁地域のオフセットクレジットを共同で取得したのは、大館北秋田森林組合と、三國商

事株式会社(三國節子代表取締役)、米代トラツク株式会社(梅村春男代表取締役社長)、有限会社松田運送(松田博雄代表取締役)、有限会社くしんリース(照内忠前代表取締役)の4企業。

取得規模は、大館北秋田森林組合が間伐作業に

使用する重機1台分31ト、三國商事が軽油・灯油運搬車など16台分35ト、米代トラツクが丸太運搬車1台分10ト、松田運送が丸太運搬車1台分10ト、くしんリースがサウピスカー1台分5トの合計91ト。

各企業、組合は削減率

などを表示した共通ステッカーを購入し、対象機(車両)にはって広く地域にその活動を普及していくことにしている。

2日、大館北秋田森林組合で開かれた活動報告会で、大越組合長は「間伐事業を行うと、林業機械や、作業道造るため

の重機を使用し、油の補充もタンクローリーで行い、搬出は運送会社にお願いすることになる。クレジットを首都圏に販売するだけでなく、地域に貢献するため各企業に呼びかけたところ、賛同が得られた」と今回の取り組みについて説明した。

